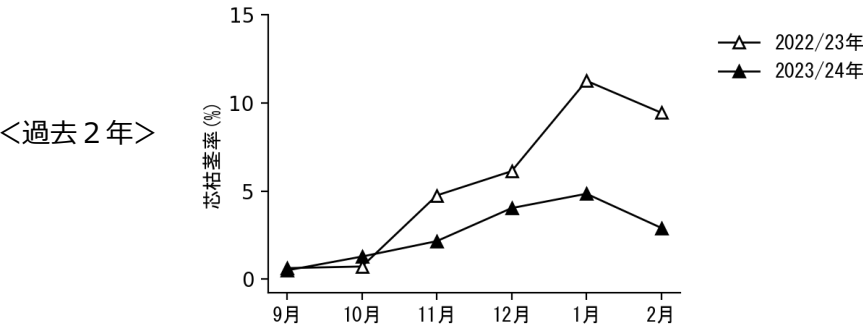
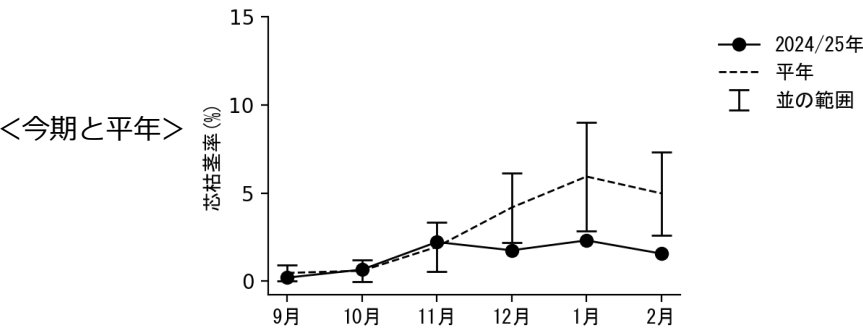


作物	さとうきび		地域	沖縄群島
病害虫名	メイチュウ類（カンシャシクイハマキ・イネヨトウ）			
調査結果	2 月の発生量（平年比）	やや少		
予 報	2 月からの増減傾向	—		
	3 月の発生量（平年比）	—		
予報の根拠				

調査結果

芯枯茎率の推移（夏植え）



・発生ほ場率81.2%（平年：92.3%）

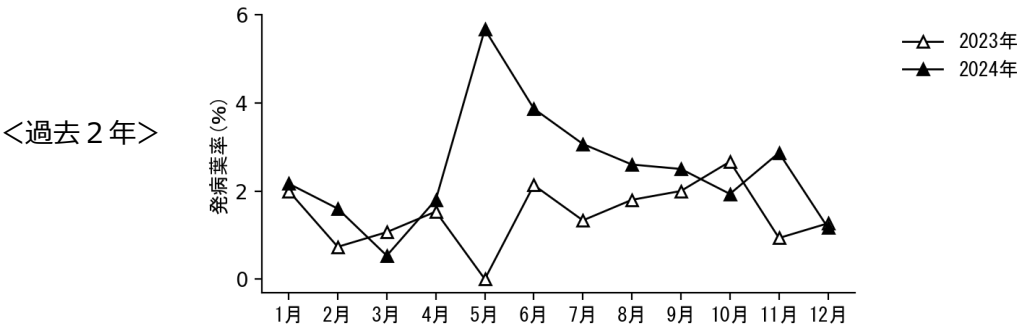
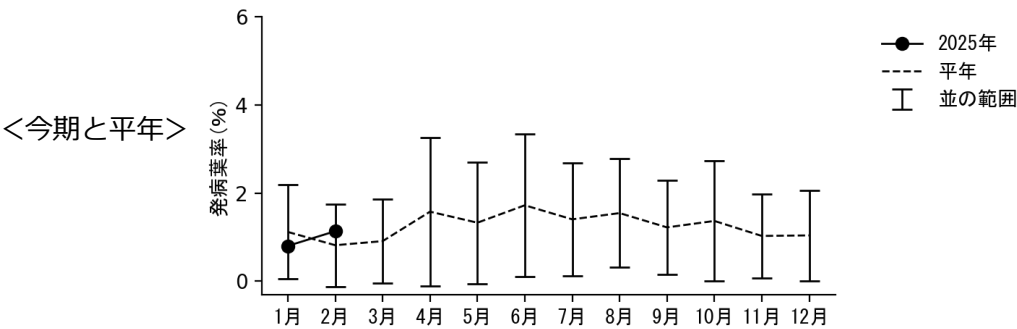
防除のポイント

- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。

作物	かんきつ（温州みかん）		地域	沖縄群島
病害虫名	そうか病			
調査結果	2 月の発生量（平年比）	並		
予報	2 月からの増減傾向	→		
	3 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

調査結果

発病葉率の推移



- ・ 葉の発病度0.2（平年0.2）
- ・ 発生ほ場率100%（平年：38.3%）

防除のポイント

- ・ 罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。
- ・ 令和6年度 病害虫発生予察技術情報第12号参照

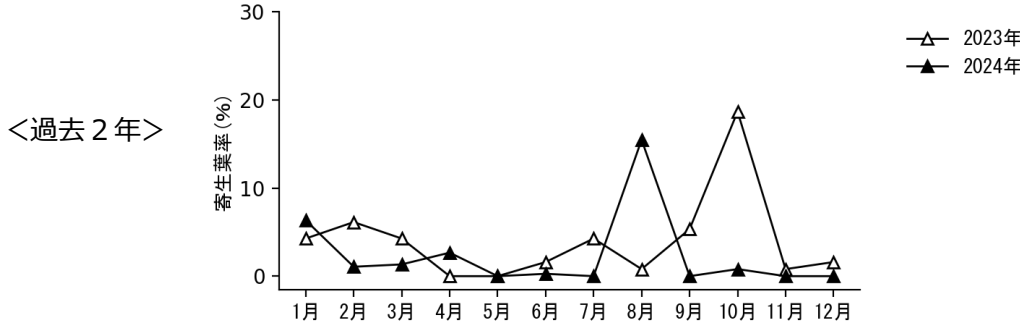
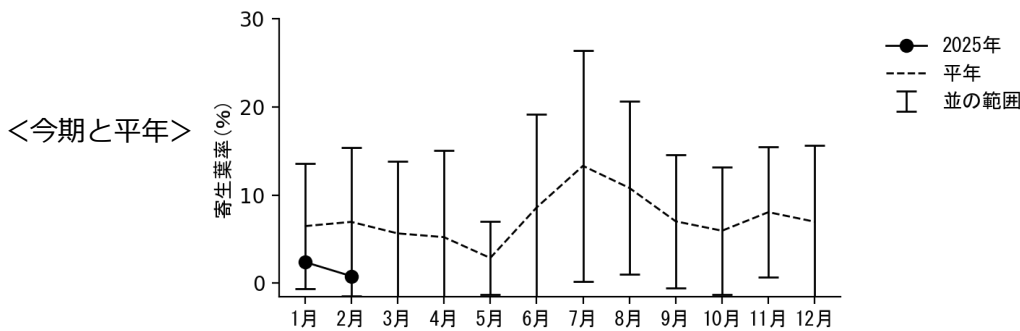
被害果→



作物	かんきつ（温州みかん）		地域	沖縄群島
病害虫名	② ハダニ類			
調査結果	2 月の発生量（平年比）	並		
予報	2 月からの増減傾向	→		
	3 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

調査結果

寄生葉率の推移



- ・発生種：ミカンハダニ
- ・発生ほ場率20.0%（平年：34.0%）

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

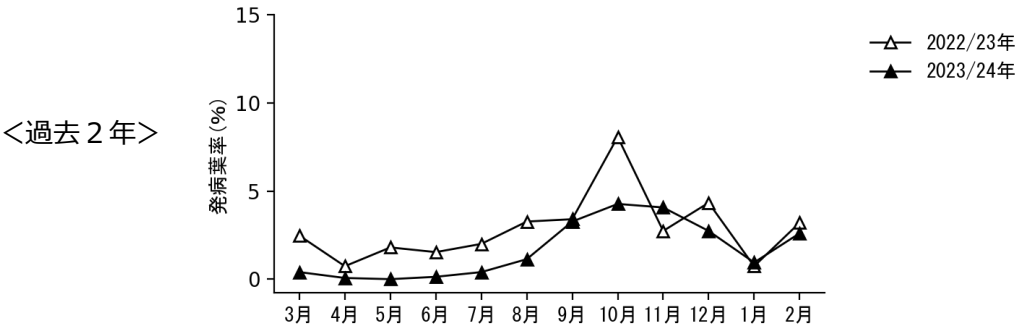
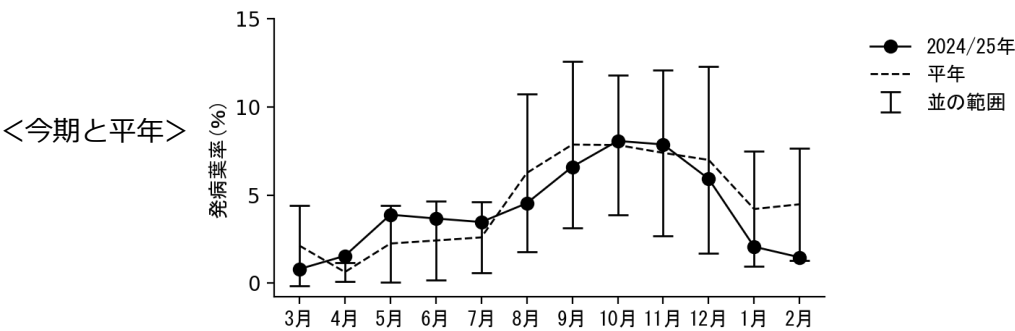


ハダニの寄生による葉のかすれ症状

作物	かんきつ（タンカン）		地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病			
調査結果	2 月の発生量（平年比）	並		
予 報	2 月からの増減傾向	↘		
	3 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）		

調査結果

発病葉率の推移



- ・ 葉の発病度0.3（平年0.9）
- ・ 発生ほ場率100%（平年：75.0%）

防除のポイント

- ・ 本病はミカンハモグリガによる食害痕から侵入しやすい。
- ・ 罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。
- ・ 令和6年度 病害虫発生予察技術情報第12号参照

被害葉→

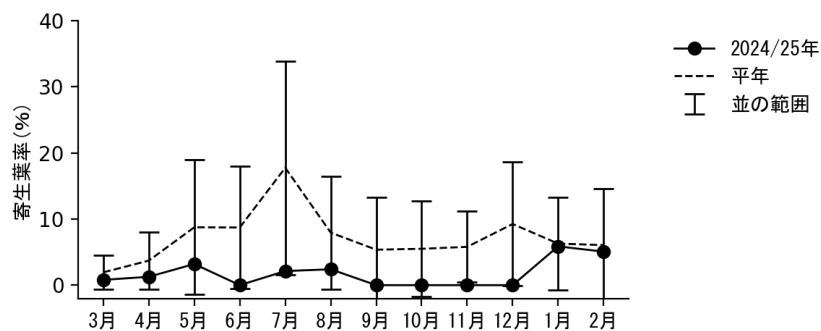


作物	かんきつ（タンカン）		地域	沖縄群島
病害虫名	② ハダニ類		 ミカンハダニ	
調査結果	2 月の発生量（平年比）	並		
予報	2 月からの増減傾向	↘		
	3 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）		

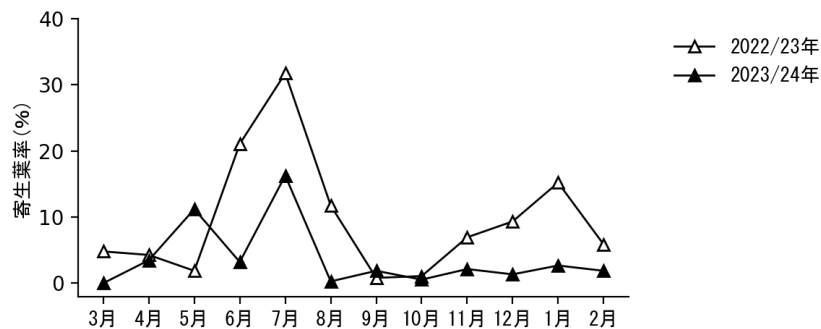
調査結果

寄生葉率の推移

<今期と平年>



<過去2年>



- ・発生種：ミカンハダニ
- ・発生ほ場率20.0%（平年：37.5%）

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

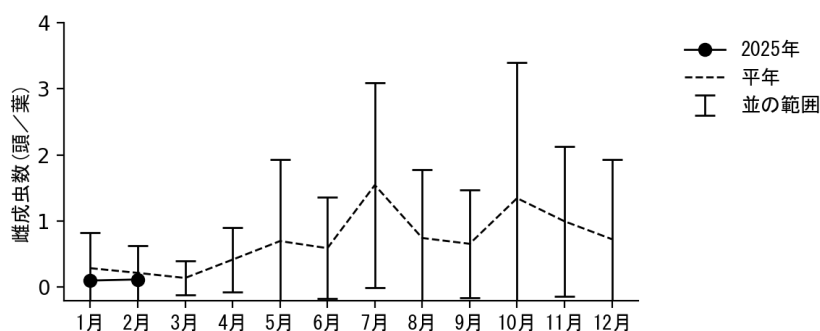
作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	① ハダニ類		
調査結果	2 月の発生量（平年比）	並	
予報	2 月からの増減傾向	→	
	3 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）	



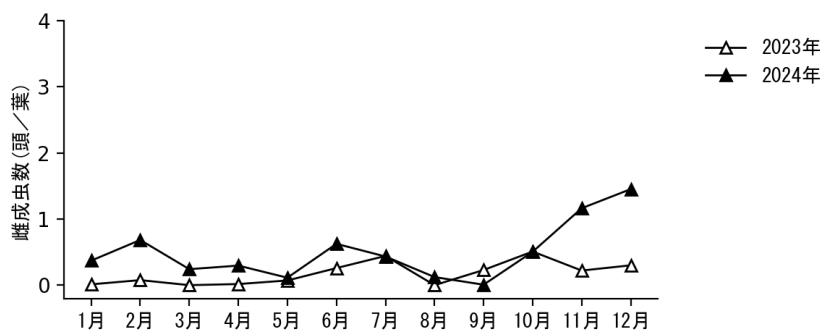
調査結果

雌成虫数の推移

<今期と平年>



<過去2年>



- ・発生種：シュレイツメハダニ
- ・発生施設率12.5%（平年：21.1%）

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状



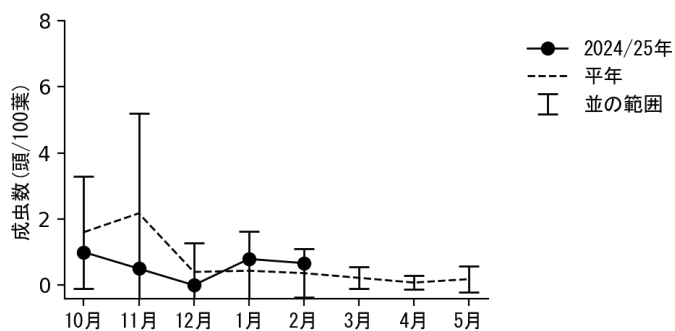
マンゴーツメハダニ

作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	① ミナミキイロアザミウマ		 成虫	
調査結果	2 月の発生量（平年比）	並		
予報	2 月からの増減傾向	→		
	3 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

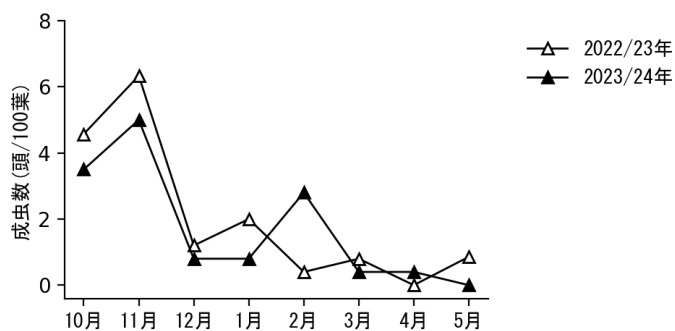
調査結果

成虫数の推移

<今期と平年>



<過去2年>



・発生施設率33.3%（平年：9.1%）

防除のポイント

- ・本種はスイカ灰白色斑紋ウイルス等を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、青色粘着板等を用い早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を選定する。



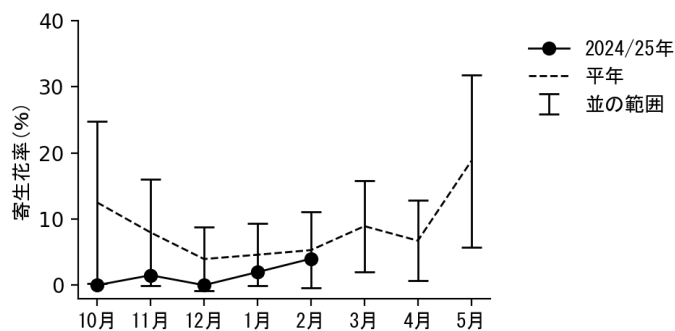
被害葉

作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	② ヒラズハナアザミウマ			
調査結果	2 月の発生量（平年比）	並		
予報	2 月からの増減傾向	↗		
	3 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

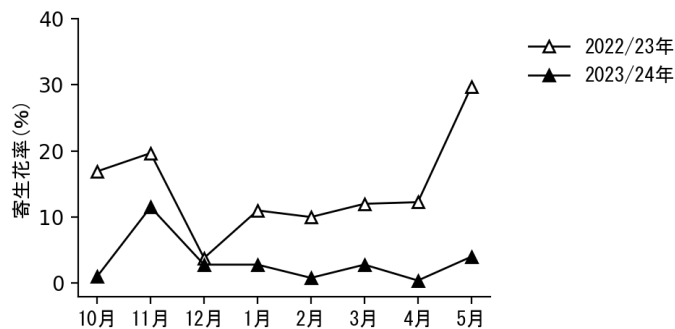
調査結果

寄生花率の推移

<今期と平年>



<過去2年>



・発生施設率66.7%（平年：42.5%）

防除のポイント

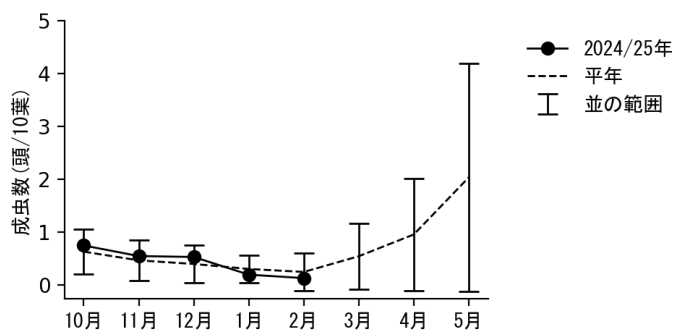
- ・主に花に寄生し、多発すると産卵により果実ヘタ部や果梗部が黒変する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、初期防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、天敵に影響の少ない薬剤を選定する。

作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	③ タバココナジラミ		 成虫	
調査結果	2 月の発生量（平年比）	並		
予報	2 月からの増減傾向	↗		
	3 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

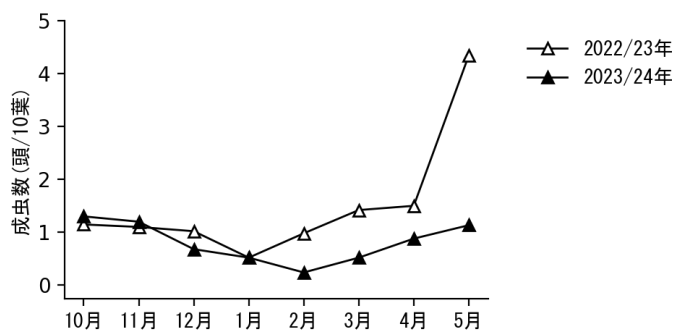
調査結果

成虫数の推移

<今期と平年>



<過去2年>



・発生施設率33.3%（平年：29.1%）

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・多発するとすす病を引き起こすため、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・天敵を利用している施設では、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を選定する。

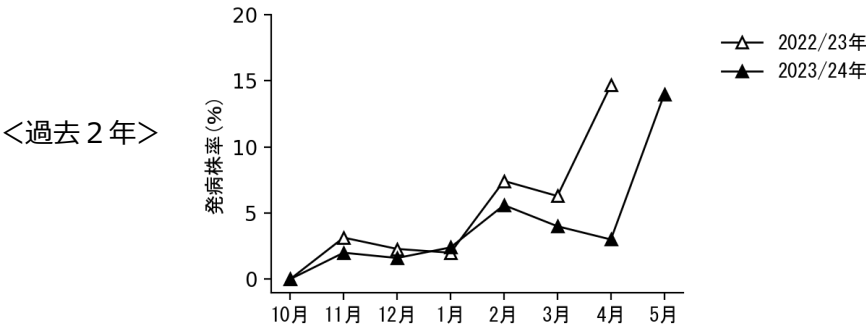
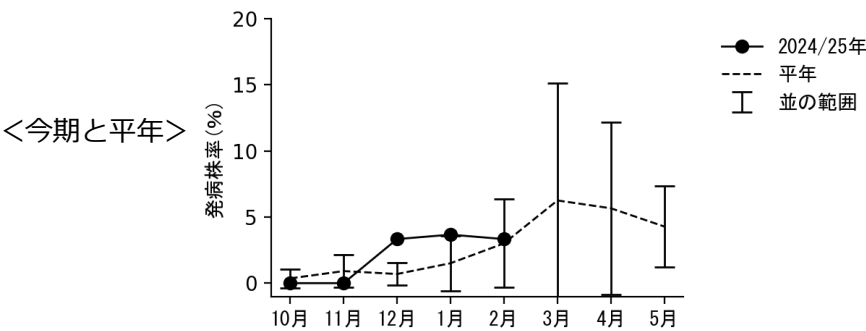


幼虫

作物	トマト(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	① 黄化葉巻病			
調査結果	2 月の発生量（平年比）	並		
予 報	2 月からの増減傾向	↗		
	3 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

調査結果

発病株率の推移



・発生施設率66.7%（平年：37.3%）

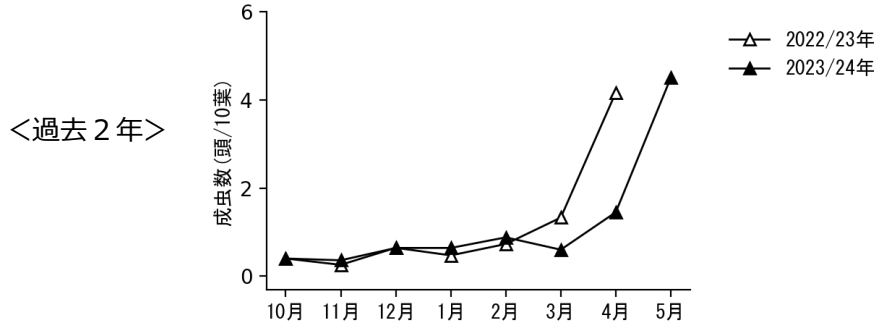
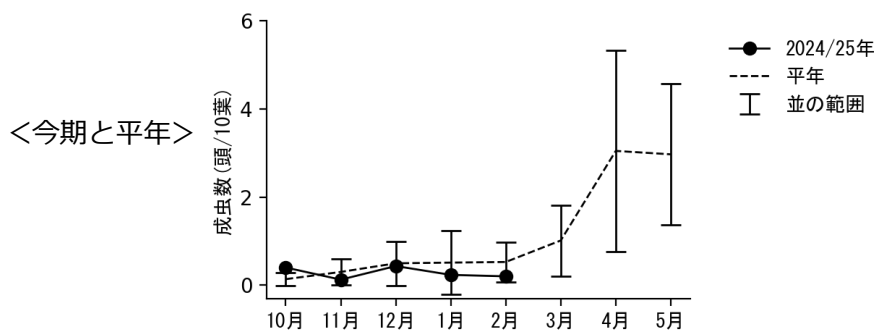
防除のポイント

- ・媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。
- ・伝染源となるムラサキカタバミやノゲシ等の雑草除去に努める。
- ・発病株や摘葉残さは伝染源となるため、施設外に持ち出しビニール袋に入れるなどして密閉処分する。

作物	トマト(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	② タバココナジラミ		 成虫	
調査結果	2 月の発生量（平年比）	並		
予報	2 月からの増減傾向	↗		
	3 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

調査結果

成虫数の推移



・発生施設率33.3%（平年：62.1%）

防除のポイント

- ・本種はトマト黄化葉巻ウイルスを媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

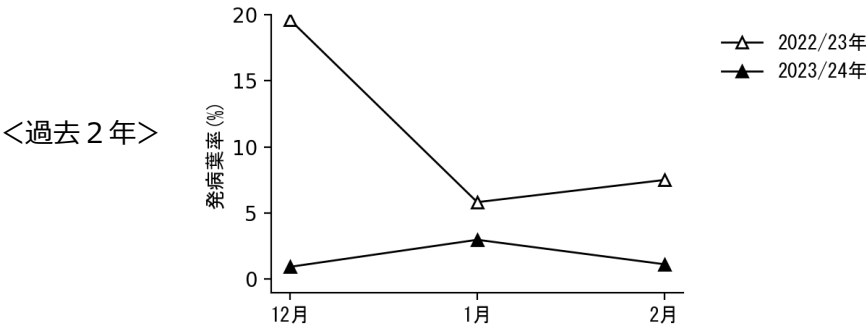
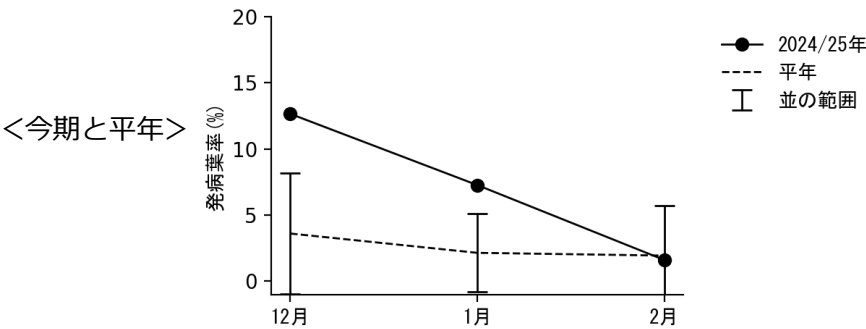


幼虫

作物	小ギク（彼岸出荷用）		地域	沖縄群島
病害虫名	黒斑・褐斑病			
調査結果	2 月の発生量（平年比）	並		
予 報	2 月からの増減傾向	—		
	3 月の発生量（平年比）	—		
予報の根拠				

調査結果

発病葉率の推移



・発生ほ場率33.3%（平年：26.1%）

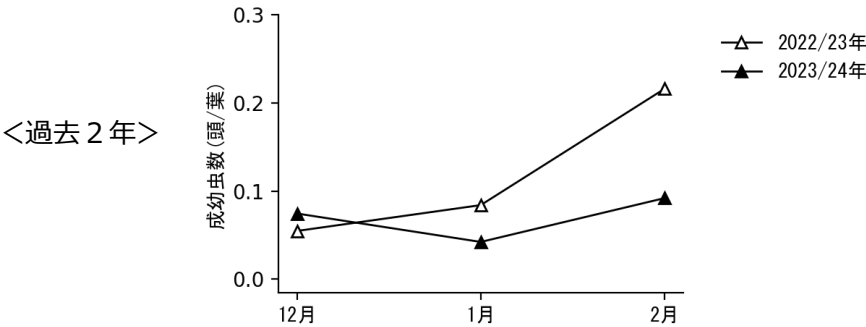
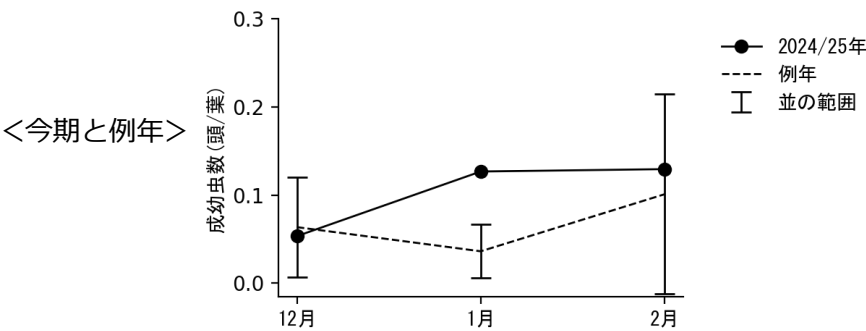
防除のポイント

- ・発病葉は速やかに除去する。
- ・ほ場の排水・通風を良くする。
- ・発生が多い場合は薬剤防除を徹底する。
- ・栽培終了後は次作の発生源にならないよう、残渣など速やかに処分する。

作物	小ギク（彼岸出荷用）		地域	沖縄群島
病害虫名	アザミウマ類		 クロゲハナアザミウマ	
調査結果	2 月の発生量（例年比）	並		
予報	2 月からの増減傾向	—		
	3 月の発生量（例年比）	—		
予報の根拠				

調査結果

成幼虫数の推移



- ・発生種：クロゲハナアザミウマ
- ・発生ほ場率83.3%（例年：55.8%）

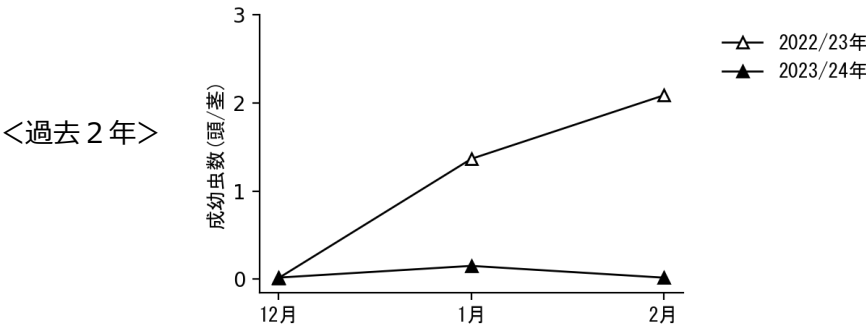
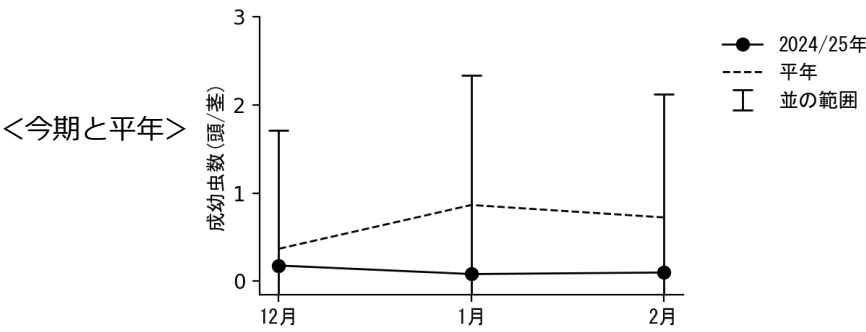
防除のポイント

- ・成虫は新葉や上位葉に、幼虫は上～中位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・同一ほ場内にあるキクは、生長段階等の違いがあっても、同時に防除を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいため、同一薬剤の連用を避ける。

作物	小ギク（彼岸出荷用）		地域	沖縄群島
病害虫名	アブラムシ類		 有翅虫	
調査結果	2 月の発生量（平年比）	並		
予報	2 月からの増減傾向	—		
	3 月の発生量（平年比）	—		
予報の根拠				

調査結果

成幼虫数の推移



・発生ほ場率66.7%（平年：32.4%）

防除のポイント

- ・発生源となりうるほ場内外の雑草を除去する。
- ・発生が認められたら新葉部を中心に発生部位に薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいため、同一薬剤の連用を避ける。

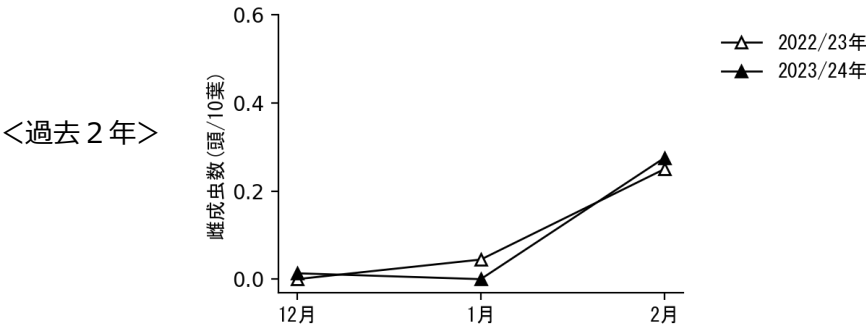
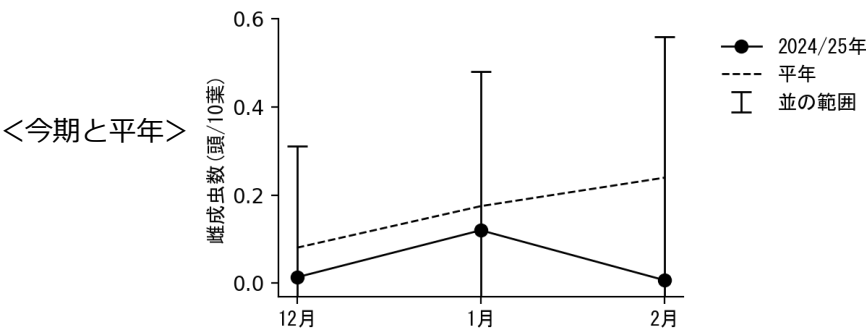


被害の様子

作物	小ギク（彼岸出荷用）		地域	沖縄群島
病害虫名	ハダニ類		 ナミハダニ	
調査結果	2 月の発生量（平年比）	並		
予報	2 月からの増減傾向	—		
	3 月の発生量（平年比）	—		
予報の根拠				

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：ナミハダニ（黄緑型）
- ・発生ほ場率16.7%（平年：18.8%）

防除のポイント

- ・葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。